

令和7年度 フィールド・スタディーズ発展 担当教員からの成果報告

No.	プログラム名	実習地	種類	プログラム紹介	担当教員からの成果報告
1	教育海外研修（オーストラリア）	オーストラリア クイーンズランド州	宿泊	オーストラリアにおいて現地文化の学修と教育インターンシップを行う現地の小学校で授業補助、見学を行い国外の教育実践の理解を深めます。（教育学科科目）	オーストラリア・クイーンズランド州の公立小学校で授業見学、児童との交流、日本文化の紹介を行うプログラムです。学校において子どもたちの心身の安全を大切にしているシステム、学び成長する心を養う教育的アプローチなどオーストラリア特有の教育方法を参加学生は学んだ。滞在中はホームステイを行い、現地の文化も体験した。学校教育における目標や方法についての視野を広げる機会となった。
			海外		
			後期		
2	看護学科カンボジアプログラム	カンボジア プノンペン	宿泊	国際医療の歴史と現状を学び、国際的な視点から看護職の未来を考えます。現地住民や専門職との英語での交流を通じ実践的な語学力を向上、異文化理解を深めます。SDGs目標3「Health for All」を中心に関連目標も探求し、日本との違いから課題を明らかにし、解決策を探ります。（看護学科科目）	カンボジアの都市部と郊外で、多様なフィールドワークと実践を経験するプログラムである。学生は、現地医療機関や起業家訪問、王立大学の特別講義と学生交流、現地の学校で子どもと交流し包括的性教育を実施した。事前に専門職の講義を受け、現地の医療・教育関係者とディスカッションし助言を得ながら実践し、帰国後の発表やインターンシップにつなげていく。R8年度は全学科の学生が共に学ぶ学際的プログラムへ発展。カンボジアとベトナム2か国で医療・福祉・教育・社会をつなぐ新たなサービスについてリアルに学ぶ。
			海外		
			後期		
3	アジアの風	タイ マレーシア 台湾	宿泊	発展著しい東南アジアの2国（タイ、マレーシア）を鉄道を含む陸路で巡り、現地の生活文化、食文化、物や人の移動、精神文化などを見学、体験します。また、復路では台北に立ち寄り台湾の文化にも触れるという充実の3国周遊プログラム。東南アジアの文化を専門とする教員が引率します。	今回研修で訪れた三か国は文化的にくっきりした対照を見せており、1回のツアーで連続的に見ることができたのは幸いであった。とくに民族構成の点で、タイのように中華系もラオ系もほぼタイ人という自己認識をしている国、マレーシアのようにインド系・マレー系・中華系と可視的で面白い多民族性がある国、台湾のように本省人・外省人の別と漢族・原住民の別があるという不可視性の民族がある国とを比べることができたのは良い機会だったと考えている。
			海外		
			後期		
4	保育・教育海外研修	フランス パリ・プロヴァンス	宿泊	フランスの芸術と保育・幼児教育現場に触れ、芸術と人間の繋がり、未来の保育・教育の目的や在り方を考察します。特に「自由」と「市民性」が芸術や保育・教育にどのように体现されているかを、現地の人々との交流を通して実感的に理解することを目指し、学生が真の「生きることの豊かさ（ウェルビーイング）」を自ら思考・実践するための基礎を築きます。（幼児教育学科科目）	フランスのバリおよびプロヴァンスにおいて教育施設と美術館を巡る研修を実施した。ルーヴル美術館やオルセー美術館での鑑賞、また子ども向けの美術館では取り組みについての講義を受けるとともに、学生からの紙芝居も実施した。小学校や保育園も訪問し、子ども一人ひとりの主体性を尊重する保育や、芸術を日常に取り入れた実践を学んだ。学生は鑑賞と現場体験を通して、文化的背景と教育の関係への理解を深め、国際的な視野を養う機会となった。
			海外		
			通年		
5	鹿角市中心市街地活性化～地元中学生と考えるまちづくり～	秋田県 鹿角市	宿泊	鹿角市の中学生と一緒に中心市街地のさらなる活性化にチャレンジするプログラムです。2022年から中心市街地の未来について市民インタビュー、ワークショップを行い、2024年は市民の新たな居場所としてチャレンジショップを実際に運営しました。2025年から中心市街地における若者のグッドプレースと一緒に考え、実際につくります。	鹿角市の中学生は、定住意向が低い。このままだと若者を中心に人口減少し、中心市街地も衰退を続けてしまう。この傾向に歯止めをかけるために、中心市街地に中学生のグッドプレースをつくらうという、今年度から3年間のプログラムである。中学生が多感な時期に鹿角市で素晴らしい経験をする事で、将来のUターンにつながるという仮説を検証することが目的である。今年は、アンケートやヒアリングから居場所について中学生のインサイトを知ることができた。来年度は、インサイトの具現化を試みたい。
			国内		
			通年		

令和7年度 フィールド・スタディーズ発展 担当教員からの成果報告

No.	プログラム名	実習地	種類	プログラム紹介	担当教員からの成果報告
6	秋田県鹿角市ー「起業家の抱もちで地域の魅力発見！」	秋田県 鹿角市	宿泊	地方創生の取り組みとして優れた移住促進の実績を出した秋田県鹿角市で実地調査を行います。豊かな地域資源と充実した移住・企業支援策を背景にUターン者が起業し雇用を生み出す現状を、インタビュー調査とインターンシップを通して学びます。起業に必要な視点や知識を習得すると共に、産業・観光・生活等の多角的な視点から地域理解を深め、地元の方々との交流を通して地方創生の現場を体感します。	本年度、秋田県鹿角市にてUターン起業家5名へのインタビューを実施した。インターンシップ期間中は、受講生を5つの班に分け、経営者の直接指導の下で課題に取り組みました。このうち、3班がふるさと納税向け返礼品の企画提案を行い、中間発表会で発表しました。他2班は、地域産業における人材育成や地域情報の発信策について提言をまとめた。また、経営者とともに地域の魅力を探索するフィールドワークも実施し、参加者の地域魅力発信に対する意識向上に寄与した。
			国内		
			通年		
7	観光地域づくりの“ストーリー”を学ぶ～宮城県栗原市での実践	宮城県 栗原市	宿泊	観光による地域づくりに取り組む栗原市において、実際に体験プログラムや宿泊施設の運営に携わります。現在の地域社会が抱える課題を体験を通じて理解し、その解決に向けて主体的に考え行動することを目指します。	栗原市における観光による地域づくりについては、通常授業でも紹介しているが、実際に現地を訪れてプログラムを体験し事業の担い手から話を聞くことで、地域が抱える課題と取り組みの可能性をより深く理解することができた。そして、受講生の所属学科が様々で、最終提案の着眼点多岐にわたることから、各自の提案について全員で議論することで多様な考え方を学べたことも成果として挙げられる。
			国内		
			通年		
8	コピーライティング基礎	新潟県 燕市	宿泊	言葉の力を磨く実践重視のプログラム。広告・ブランディング分野で活躍できるコピーライターの技術を学び、取材力、企画力、情報編集力、共創力、言語化力を高めます。キャッチコピーやインタビュー原稿作成等の実践的な演習を通して、企業のブランディングや広告制作、コンテンツ制作に携わるコピーライター、ライター、あるいは企業・自治体の広報・マーケティング担当として活躍できる基礎力を養成します。	このコピーライティング「基礎」のプログラムでは、取材、原稿制作、メッセージ開発などの演習を事前授業で行った後、新潟県燕市での9泊10日の学外学修を14名で行った。3チームに分かれ、「地場産業の人材充足」「関係人口増・移住促進」「商店街活性化」という地域の重要課題の現場と、そこで頑張る方々取材。インタビュー原稿制作、ポスター制作、スローガン・ステートメント開発に取り組み組んだ。合宿中は「同じ釜の飯を食う」を重視し、食事づくりも共にすることでチームづくりができていた。制作物はさらに「応用」で形にしていく。
			国内		
			後期		
9	コピーライティング応用	新潟県 燕市	宿泊	コピーライターの技術・ノウハウを学び、取材・企画・情報編集・共創・言語化能力を高め、企業・製品のブランディング/広告/コンテンツ制作、或いは企業/自治体の宣伝・広報・マーケティング部門で社会に貢献し活躍できるコピーライター/ライター育成を目指します。基礎に比べ応用では、取材に基づく情報収集と、効果的な言語化実践実習を多く行い、更なる貢献力向上を目指します。	コピーライティングの力で実社会の課題解決に挑む「応用」プログラム。令和7年度の学外学修では、新潟県燕市での9泊10日の合宿を行い、地場産業の人材充足への貢献を目指して3社の採用メッセージムービーを制作した。採用メッセージ開発、アクションカメラによる撮影、ナレーション収録、音楽選択、編集まですべて自分たちで行った。「ようこそ、ものづくりのスタート地点へ」「わたしの火花を散らせ」「かっこよくないわけあるもんか」。熱量の高い3篇の映像を2人でつくりあげた。
			国内		
			通年		
10	長野県信濃町の地域活性化企画Ⅰ	長野県 信濃町	宿泊	長野県信濃町における地域活性化を考えます。日本の地域経済、産業、地方行政に触れて、地方活性化の企画を作成します。2週間程度の学外学修を行います。 ※「長野県信濃町の地域活性化企画Ⅰ～Ⅲ」は基本的に合同で実施	5泊6日の学外学修では最大10名の共同生活を体験し、学科学年横断の交流ができた。チームでの活動でもそれぞれの持ち味を生かす体験ができていた。事前学修では仲間づくり、チーム作りにおいて最終的に全体のつながりができていた。チームでの発表体験でプレゼン能力の向上と地方への関心を高めることに寄与した。
			国内		
			通年		

令和7年度 フィールド・スタディーズ発展 担当教員からの成果報告

No.	プログラム名	実習地	種類	プログラム紹介	担当教員からの成果報告
11	長野県信濃町の地域活性化企画Ⅱ	長野県 信濃町	宿泊	長野県信濃町における地域活性化を考える。日本の地域経済、産業、地方行政に触れて、地方活性化の企画を作成する。2週間程度（56時間）の学外学修を行う。 ※「長野県信濃町の地域活性化企画Ⅰ～Ⅲ」は基本的に合同で実施	5泊6日の学外学修では、前年度の経験を生かし、上級生としてチーム作りや共同作業の円滑化に貢献した。事前授業でもリーダーシップと寛容性が高まり、学科・学年を越えた一体感を形成した。最終発表では地域課題を分析し提案をまとめる過程を通じて、プレゼン力の向上と地域への関心の深化につながった。
			国内		
			通年		
12	長野県信濃町の地域活性化企画Ⅲ	長野県 信濃町	宿泊	長野県信濃町における地域活性化を考える。日本の地域経済、産業、地方行政に触れて、地方活性化の企画を作成する。2週間程度（56時間）の学外学修を行う ※「長野県信濃町の地域活性化企画Ⅰ～Ⅲ」は基本的に合同で実施	5泊6日の学外学修では、最大10名での共同生活を通じて学科学年を越えた交流が深まり、前年度の経験を基に上級生としてチーム内外の調整や作業分担を積極的に担った。事前授業では後輩への声かけや意見整理など周囲への配慮が顕著で、リーダーシップと寛容性が一層向上した。最終発表では地域課題の分析と提案づくりを主導し、プレゼン力の向上および一層の地域理解の深化につながった。
			国内		
			通年		
13	銚子で留学体験—異文化コミュニケーション×地域活性化	千葉県 銚子市	宿泊	千葉県銚子市で、オランダ・アムステルダム応用科学大学から来日する大学生15名と協働し、地域活性化のための施策を提案します。事前にオンラインでの交流プログラム等も実施することで、学生同士のコミュニケーションの場を用意します。	学生たちが銚子で過ごした1週間にも満たない時間であったが、忘れられない貴重な経験になったことは間違いないと確信している。オランダから来た大学生との英語での交流や、銚子におけるフィールドワーク、最終日の銚子市長へのプレゼンテーションは、座学では得ることのできない大きな学びとなった。
			国内		
			通年		
14	古建築に学ぶ旅	京都府 京都市	宿泊	日本建築史を学ぶ上で最も重要なことは、今も残る古い建築を実際に訪れ、自分の目で見て、その空間を体験することです。本プログラムは、京都に残る伝統的な日本建築をめぐり、時代の変遷や建築種別による空間の特徴や、建築様式、部材名称などを、実例を通して具体的に学修します。(建築学科科目)	建築デザイン学科の学生は、座学の必修科目「日本の建築」を必ず履修し、基礎知識を身につけているはずである。しかし、実際に古建築を訪れ、その空間を体験し、伝統技術や表現の工夫を自分の目で見て理解し、自分のものにしていくことが非常に重要である。今回参加した学生は全員、その大切さを実感したと思われる。いつまでも学ぶことは尽きず、今後も継続的に実施していきたい。
			国内		
			通年		
15	ヘリテージツーリズム：和歌山の古道を歩く	和歌山県 田辺市 他	宿泊	和歌山大学主催「和歌山の参詣道を歩く」ことを通じて「環境と精神文化」を基盤とする持続可能な観光、特に環境へのインパクト減、コミュニティとの関わり、地域貢献などを重視する観光のあり方について学びます。世界遺産「熊野古道中辺路」を歩き、自然の持つ精神文化に触れながら、観光開発の基礎（来訪者の動機、地域住民との関わり、リスク管理、プランニング、マネジメント、マーケティング等）を議論します。	全行程を歩き、住民、事業者、参加者の意見を得ることで、世界遺産地域の環境・文化の保全の意義、観光のあり方を深く理解することができた。今回7カ国から参加しており、多様な視点を得ることができた。全員が活動・議論全てにおいて積極的に取り組み、高い満足を得ることができた。研修は今回で15回目であり、地元住民や事業者からの積極的な協力が得られ更に意義深いものとなっており、プログラムの更なる発展が期待される。
			国内		
			後期		

令和7年度 フィールド・スタディーズ発展 担当教員からの成果報告

No.	プログラム名	実習地	種類	プログラム紹介	担当教員からの成果報告
16	「働きがい」を創り出せる人材になる	沖縄県 石垣市	宿泊	自己理解を深めるワークショップと、日本からグローバルビジネス展開を行う人々との対話を通して、未来の人材像を実践的に理解するプログラム。キャリア教育的視点に基づき設計されたフィールドワークで、オフィス見学やインタビューに加え、スタディ・ツアーや事前・事後ワークショップを通して、経験をキャリアの学びへ繋がめます。	石垣島では、酒造、小売コンサル、ホテル、ガスなど、多様な業界の第一線で活躍する経営者やビジネスパーソンから、実際の取り組みやキャリアについて直接話を伺うことができた。また、それらを単なる「勉強」で終わらせるのではなく、学生一人ひとりのユニークなキャリアへと結びつけられるよう、事前・事後授業を実施。さらに、普段は学生同士では行えないようなキャリアについての深い対話を行える仲間を、学部垣根を越えて見つけることができた点も、大きな意義のある経験となった。
			国内		
			通年		
17	Cross-Cultural Exchange Program (Japanese society & business)	埼玉県 さいたま市 川越市	通学	This program provides students from diverse linguistic and cultural backgrounds with the opportunity to explore Japanese society and business. Working in pairs and using portfolios for self-assessment and reflection, Students develop independent learning, enhance Japanese/English skills, and gain cultural insights. (異なる言語や文化の学生がペアになって、英語を通して日本と海外のビジネスや社会について学び合うプログラムです。)	Students engaged in experiential and intercultural activities that strengthened communication skills and broadened perspectives. In spring, they visited the Omiya Bonsai Art Museum in Saitama and walked through Omiya Park, learning about Japanese aesthetics and local culture. In autumn, they explored historic Kawagoe and its traditional streetscapes. During the semester, students met their language partners six times each term to discuss home-country cultural differences, food, part-time jobs, and life in Tokyo. These friendly conversations encouraged active listening, confidence, and genuine friendships with peers from different departments. Together, they created a supportive community and gained intercultural skills for global business study.
			国内		
			通年		
18	仏教を学び、仏教から学ぶFS	首都圏近郊	通学	現代の諸相の中に見られる様々な仏教およびその影響について学んだ上で、寺院・美術館などを訪問し、学んだ内容が現代の仏教においてどのように表れているかを確認します。学外学修で得た気づきを整理し、事後学習では自身の生き方を考察し、自己と世界への理解を深めます。(仏教副専攻)	事前授業(座学)において学んだ"現代における仏教の諸相"を学外実習を通して体験・実感した。その中で、仏教が単なる「古くからある宗教」や「文化」「芸術・美術」ではなく、いつの時代・地域においても仏教が人間とともにあった要因の一つとして、仏教が「心の安寧」を与えてくれるものであり、それは現代や未来においても大切な重要なものであると学んだ。
			国内		
			通年		
19	「行」を味わう	東京近郊	通学	仏教において「学(学修)」と「行(実修)」は車の両輪であり、どちらを欠かすこともできない悟りへの重要な階梯です。本プログラムは、仏教の行を知り、話を聞き、ある場合には体験し、仏教の総合的な理解をめざします。講義4コマとそれに関連した見学、実修を5カ所想定しています。(仏教副専攻)	本学の仏教教育では、これまで「行」を取り上げることはなかった。これは浄土真宗の教義では「行」を独立した行為として捉えていないことによる。しかし、仏教全体を見ると「行」は欠かせないものとして行われている。本プログラムでは、座禅や阿字観、写仏や写経、唱題や御詠歌、法話聴聞や法要見学など、多彩な「行」を体験して味わってみたいことを通じて仏教にとどまらず宗教全体の理解に寄与できたものと期待できる。
			国内		
			後期		
20	DV被害女性と子どもに対する支援	東京都	通学	DV被害等を受けシェルターに滞在したことのある女性やその子どもに対して、自立を目指す多様な心理的支援活動に参加します。被害を受けた子どもの学習支援を行ったり、ワークショップや行事の運営、会議に参加しつつ、被害者支援活動について学びます。(人間科学科科目)	活動に参加した学生は、実際にDV被害を受けたご家庭のお子さんを対象とした支援を中心にいった。支援施設の子ども食堂で一緒に食事をしたり、遊びや勉強を教えたりする中で、子どものかかわりを学んでいった。その他キャンプや各種イベントの企画にも参加。またDV被害者の支援者養成講座に参加する学生もいた。大学で学んだ理論を踏まえ、実践的な学びを得る機会となった。
			国内		
			通年		

令和7年度 フィールド・スタディーズ発展 担当教員からの成果報告

No.	プログラム名	実習地	種類	プログラム紹介	担当教員からの成果報告
21	“商い”を知る	東京都 江東区	通学	本学有明キャンパスのロハスカフェARIAKEの協力をうけ、足立恵介代表社員にご指導いただきながら、学生たちがお弁当をプロデュースし販売します。限られた元手で、何をどのように売るか、企画から交渉、広告、販売、経理、決算にいたるまで全て学生の責任において行います。	学生たちは自ら最終的な利益の目標をたて、ロハスカフェARIAKEの足立恵介さんのご指導のもとお弁当をプロデュースし、自分たちで実際にお弁当を販売した。右も左も分からないなか、初めて会った学生たちがチームを作り上げ、「楽しさ」ではなく「数字」を常に意識して活動するため、本当に大変だったと思うが、その分とてもよい経験になったと思う。なお、目標の利益はしっかりクリアした。すごい！
			国内		
			通年		
22	映像制作表現プログラム（基礎）	東京都 西東京市	通学	西東京市と連携を取り、自治体の個性を活かした映画制作を行います。また、基礎的な映像製作（企画、シナリオ、演出、制作、撮影、編集など）の習得を目的とします。	
			国内		
			通年		
23	映像制作表現プログラム（応用）	東京都 西東京市	通学	西東京市と連携を取り、自治体の個性を活かした映画制作を行います。映像製作の習得にとどまらず、映像文化の歴史を踏まえながらも、新たな価値を生み出す創造者を育成することを目的とします。	社会の巨大なシステムからこぼれ落ちたとるに足りないものを拾い上げ、それらを題材に何かを描こうとする行為はある種の少数派だと言える。しかし、現代の多数派のシステムとは別のところで、少数派として制作・表現を行なった学生らは、人間が生きるための「新たな力」を生成させる可能性を見出せたと感じている。
			国内		
			通年		
24	映像制作表現プログラム（発展）	東京都 西東京市	通学	西東京市と連携を取り、自治体の個性を活かした記録映像制作を行います。メディアのあり方やジャーナリズムの役割について探求します。また、市民と向き合うことで映像によるコミュニケーションの多様性を学習します。	
			国内		
			通年		
25	東京都西東京市 子どもが暮らしやすいまちづくりプロジェクト	東京都 西東京市	通学	西東京市子育て支援課との協業を通して、市内の児童館でのユーザー（保護者や子供）へのインタビューや実習活動を行い、児童館における子育て支援の実態や課題を理解し、西東京市に解決策の提案を行うことで、市の政策立案に寄与することを目的とします。	西東京市子ども相談室「ほっとルーム」を主なフィールドとして、子どもの権利に対する基本的な知識や、西東京市が取り組む子ども政策について実践的に学ぶことができました。西東京市に所在する武蔵野キャンパスのみならず、有明キャンパスからも学生が多数参加し、多様な学科構成で学生間の交流、協働が実現できたことも大きな成果であった。
			国内		
			通年		

令和7年度 フィールド・スタディーズ発展 担当教員からの成果報告

No.	プログラム名	実習地	種類	プログラム紹介	担当教員からの成果報告
26	学生が取材編集する中堅企業のCSR・SDGsを指向した経営戦略	東京都 港区	通学	企業のCSR/SDGsに関する講義と、SDGs視点を取り入れた経営戦略立案を通して、企業の非財務価値を学びます。中堅企業のCSR/SDGsレポートや動画作成の実践を通して、企業のメディア戦略も習得し、将来の経営に必要な視点を養成します。	広告代理店であるニッセイエプロ社において、「自分だけのサステナビリティストーリー」をテーマに企業における非財務価値やSDGsに関連する取組みを学んだ。加えて、参加学生が主体となり、経営者や従業員の方を対象に、組織や業務への満足度など、就業に関連するインタビュー調査を行った。各学生の「社会貢献」や「働くこと」のイメージを具体化することができた。プログラムの目的を達成できたと感じている。
			国内		
			通年		